



岩手大学

岩手大学広報誌
IWATE UNIVERSITY

vol.45 APRIL
2020.4

INDEX

- P1…新旧学長インタビュー
- P2…研究紹介 ● 身体運動の巧みさを追及するーゴルフパッティング課題を用いた距離感に関する研究ー 人文社会科学部人間文化課程 准教授 長谷川 弓子
- P3…キャンパスライフ ● サークル紹介 ● GANDAI UPDATES ほか
- P4…センパイ紹介!! ほか ● センパイ紹介!! ● シンガポール日本人学校中学部教員 松田 航平さん
- TOPICS ● 農学部附属寒冷フィールドサイエンス教育研究センターでアウトドア車椅子 HIPPOcampe を導入 ほか
- Information ● 岩手大学の教育・研究コストの情報 ほか

新旧学長インタビュー

前学長

岩渕 明



1. 学長を務めた約5年間はいかがでしたか。これまでを振り返り、現在のお気持ちをお聞かせください。

平成27年3月に岩手大学長を拝命し約5年務め、大学を離れた今の気持ちとしては、楽しかった、の一言です。学長の仕事は、教育、研究、経営、渉外など多岐に渡る上、プレッシャーのある役職であり、自分が思い描いたように進められないこともありましたが、自分なりに頑張ってきました。これも、学内外の多くの皆様方のご支援、ご協力のおかげであると思っています。ありがとうございます。

これまで、グローバルな大学を作る、復興活動を継続する、岩手大学としてのアイデンティティを涵養する、地域を先導する、という4つの柱を掲げ、様々なことに取り組んできました。たとえば令和元年に岩手大学は創立70周年を迎え、記念式典をはじめとする各種イベントを行うことで、同窓生を含む構成員が岩手大学の一員であるというアイデンティティを確認することができましたし、これまで岩手大学が全学体制で取り組んできた震災復興支援活動をまとめた復興活動記録誌を作成することは、使命でもありました。震災後釜石キャンパスを設置できたことも思い出です。さらに、外国人留学生同窓会の設立や国際交流会館の増改築をするともに、被災地学修などの地域の現状を学ぶ機会を設けるなど、グローバルな大学に向けた取組を進められたと思っています。

今は、やり抜いたという安心感と、任期が終わってしまったという寂しい気持ちの両方が入り混じった複雑な心境ですが、次の時代の岩手大学も地域貢献等に継続して取り組み、発展していくことを期待しています。

2. 岩手大学、岩手大学生への今後の期待をお聞かせください。

学生には、「誇りを持って」ということを伝えたいと思います。自分の能力がどこに活かせるかを考え、また岩手大学でどのように自分を磨き上げるのか、ということが大切です。また自信をもって物事をやり遂げることで「誇り」が生まれるはず。その「誇り」を大切に学生生活を過ごし、社会でも活躍して欲しいです。

また、岩手大学では様々な分野でリーダーとなる人材を養成したいと考えていました。自ら考え、積極的に活動している学生も多くいますが、周囲が進めてくれることを待つような受身の学生もいます。そうではなく、サークル活動や勉強、研究発表など、何かをなすために自分から積極的に動くということを期待しています。

今後大学として、グローバルな活動は避けて通れません。今日、課題解決能力が重視されますが、より重要なのは課題を抽出する能力だと思います。課題を見つけないことには行動することができないからです。外国に行って、英語が話せたからと言って課題が見つかるのかと言えば、そうとも限りません。そこからさらに一歩深め、考えることが重要です。

10年後、世の中は大きく変化していると思います。大学の文化や歴史を、今後、時代の変化にマッチングさせていくことも求められるかと思いますが、また、大学が変化していく中で、日本の大学を先導するような、モデルとなるようなチャレンジングな活動を岩手大学や岩手大学生に期待しています。

3. 在学生や受験生など、若い人へのメッセージをお願いします。

自分の固定観念のみで物事を捉えるのではなく、自分とは異なる文化、価値観を持つ方々と積極的に交流してほしいです。他者を受け入れる寛容性を持ち、様々な価値観に触れて、様々な物事の捉え方を知ることで、自分自身の物の見方も深みを増すことになります。そのような学生が多ければ、みんなが自分なりの個性を出すことができ、多様性が生まれ、大学生活もより面白いものになると思います。

私たちが聞きました!
学内カンパニー i-Connectメンバー
人文社会科学部4年
中村 太一



新学長

小川 智



1. 就任にあたって、今後の岩手大学のビジョンをお聞かせください。

私の岩手大学人としての考え方の根底にあるのは、より良い未来を創造する高等教育研究機関としての岩手大学が、「知識創造の場」として「地域の知の府」として、今後もあり続けるということです。

そのためには、これまででも、そしてこれからも、岩手大学が経営面でも教学面でも健全に運営されて、教育・研究・社会貢献の各領域において、地域に頼られる、そして尊敬され愛される存在であることが大切です。

私の目指す大学像は、共考と共創(共に考え、協力して創る)です。現在、岩手大学には約750人の教職員が在職していますが、この750人の力だけで大学を創ることは叶いません。本学には約5,500人の学生が在籍しています。より良いキャンパスを創る上では、学生の力が必要不可欠です。

そのために、10年後を見据えた「岩手大学ビジョン2030」を策定して、その実現に努めていきたいと考えています。このビジョンの骨格となるのは4点、1.きめ細やかな教育システムの確立、2.基礎研究を含めた研究力全体の向上、3.地域連携のアップデート、4.働き甲斐のある職場の実現、となります。

2. 地域産業・文化への貢献が評価される岩手大学ですが、今後の展望をお聞かせください。

本学の地域貢献は、先駆的な取組として、国内外から評価されています。その基礎があったからこそ、東日本大震災復興に大きく貢献して、国からも地域からも高く評価されてきました。

今後も地域貢献を継続することは重要ですが、高等教育研究機関として、教育面では、地域社会で活躍する学生の輩出、研究面では、地域社会や地域企業が抱える課題の解決という、大学と地域がお互いにメリットがあるようなwin-winの関係づくりが必要だと考えています。

そのためにも、大学自らがイニシアチブをとって、法人になったことによる裁量を十分に活かして、地域の知のニーズに柔軟に対応できる体制を整えることが重要と考えています。

3. 岩手大学は創立70周年を迎えました。岩手大学の強みと、今後大学に必要な力をお聞かせください。

岩手大学の強みの一つは「ワンキャンパスであること」です。少し離れた釜石にもキャンパスはありますが、それでも岩手大学に通う全ての学生は、必ず一定期間この上田キャンパスで学生生活を送ります。ワンキャンパスであることは、国立大学の中でも中々無いため、学びの環境として極めて大きな強みであると考えます。そのメリットを活かし、ONLY ONEの大学を目指すことが出来ます。今こそ、大学の大きな使命である「人づくり」に原点回帰の必要性を感じています。

それは、有為な人材を輩出する「学生づくり」、優れた教育研究を展開する「教員づくり」、そして、大学運営に力を発揮する「職員づくり」、というように岩手大学の構成員みんなが成長していく大学になりたいです。学問の教授が大学教育にとって重要であることは言うまでもありませんが、学生が多文化共生社会すなわち、グローバル化社会の構成員になった際に自己実現が

できるようなリテラシーを養う教育が必要と考えています。岩手大学に居ながら「グローバル化社会を生き抜ける国際力」を身につけられる仕組みをつくっていきたくです。

そのためには、岩手大学に国内の様々な地域、また世界各地からの多様なタレント溢れる人材を集めて、学生力、教員力、職員力をともに高めたいです。

そして岩手大学から、地域、世界へ有為な人材を輩出していきたくと考えています。地域と世界をつなぐハブ大学としての機能を、岩手大学に持たせたいと考えています。

4. 在校生や受験生など、若い人へ向けたメッセージをお願いします。

存続し続ける「生命力」すなわち「生き抜く力」を持った、より良い未来の創造者となれ!

私たちが聞きました!
学内カンパニー i-Connectメンバー
人文社会科学部4年
大友 葵(左)・大崎 樹哉(右)



身体運動の巧みさを追及するーゴルフパッティング課題を用いた距離感に関する研究ー



人文社会科学部 人間文化課程
准教授 長谷川 弓子

スポーツは長い歴史を通じて多くの人々を魅了し続ける人間の営みの一つです。スポーツの場においてみられる卓越した動きを理解する取り組みは、ヒトの能力の新たな側面を見出せる可能性をもっています。ヒトの高度な認知・運動能力を明らかにするために、脳科学、心理学、生理学、神経科学、工学などにおいて数多くの研究が行われてきており、私はスポーツ心理学の立場からヒトの「巧みさ」について研究しています。

スキルサイエンスの研究成果と距離感

スキルサイエンスをキーワードとする研究成果の蓄積により、優れた技能を有する者は、そうでない者と比べ、安定したパフォーマンスを発揮でき、パフォーマンスの正確性や再現性が高いという特徴をもっていることが明らかとなっています。また、そのようなエキスパートの巧みな動きを支える認知的特徴として、課題特有の情報に関する知識が豊富であり、選択可能な戦略に優先順位をつけ、それらを素早く選択することができる点があげられます。

しかし、ヒトの心理量(主観)を記述することは難しく、例えば、エキスパートはどのように環境が読めるのか、未熟練者は何故わからないのか、を理解することはできていません。ヒトの巧みな動きを理解するために、私は距離感に着目し、行為者の知覚や情報処理過程にアプローチすることにしました。

スポーツにおいて求められるような優れた距離感を獲得・発揮するためには、環境から知覚された心理量を物理量(力量)に変換し、フィードバックによる誤差修正を行うという過程を繰り返し訓練する必要があります。距離感とは「環境の中から必要な情報を抽出する能力」と「適切な方略を選択する能力」である環境を読む力と力量発揮の掛けあわせにより生成されると考えられます。しかし、距離感を

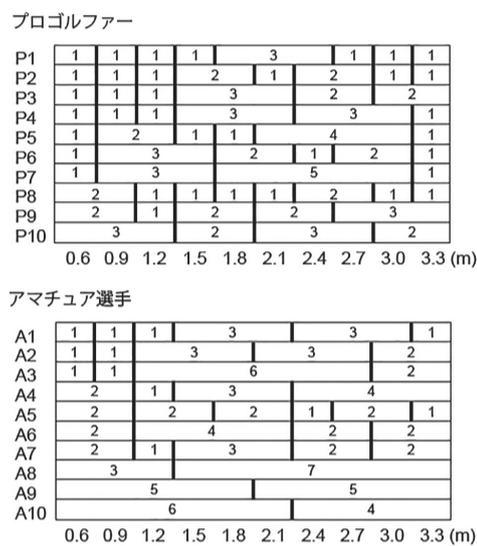


図1

プロアマ10名それぞれのオーバーラップの程度を示す。隣接する距離に速度のオーバーラップがなければ「1」と示される。例えば「2」の場合、隣接する2距離にオーバーラップがあることを示す。

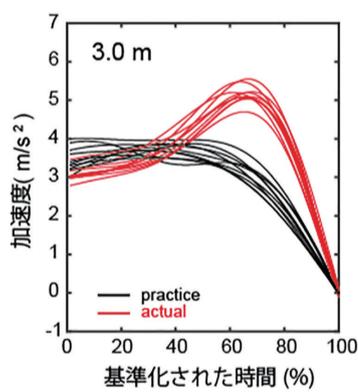


図2

- 文献
- [1] Hasegawa, Y., Fujii, K., Miura, A., Yamamoto, Y. (2017) Resolution of low-velocity control in golf putting differentiates professionals from amateurs. *Journal of Sports Sciences*, 35(13), 1239-1246.
 - [2] Hasegawa, Y., Fujii, K., Miura, A., Yokoyama, K., Yamamoto, Y. (2019) Motor control of practice and actual strokes by professional and amateur golfers differ but feature a distance-dependent control strategy. *European Journal of Sport Science*, 19(9), 1204-1213.
 - [3] Hasegawa, Y., Miura, A., Fujii, K. (in press) Practice motions performed during preperformance preparation drive the actual motion of golf putting. *Frontiers in Psychology*.

Figure captions

- 図1. プロゴルファーとアマチュア選手のクラブヘッド速度制御の違い。実験に参加したプロ・アマ10名それぞれのオーバーラップの程度を示す。隣接する距離に速度のオーバーラップがなければ「1」と示される。例えば「2」の場合、隣接する2距離にオーバーラップがあることを示す。
- 図2. プロゴルファー1名の3.0 mからのパッティングの加速度プロフィール。ダウンスイング開始からインパクトまでを示す。黒色は素振り10打、赤色は実打10打を示す。
- 図3. プロゴルファー1名の素振りと実打の関係。色の違いは距離の違いを表す。

距離感の解明に向けての取組

我々の研究グループは、ゴルフパッティングを運動課題とし、ヒトの動きを高い時間分解能で撮影できる光学式動作解析装置を用いて、環境を操作できる実験を何度も行ってきました。具体的には、①実行局面的動き②準備段階の動き③運動の方略④知覚という通常想定される情報の流れとは逆の順序でそれぞれの局面における問題の解明に取り組んでいます。はじめに、我々は学習の程度(技能水準)によって運動制御の解像度がどの程度異なるかということを確認しました。プロゴルファーとハイレ



実験の様子

ベルアマチュア選手に、0.9 mから3.0 mの間の様々な距離の標的に対して(0.3 m間隔)パッティングしてもらいました。一般的に、ヒトは微細な力を精度よく発揮することが苦手ですが、プロゴルファーのクラブヘッド速度を調べると、彼らは隣接する距離に対してクラブヘッド速度をオーバーラップさせることなく、微細に打ち分けていることがわかりました。一方、アマチュア選手はプロと比べてホールイン数に遜色はないものの、隣接する距離への速度のオーバーラップが多く、速度制御能力がプロよりもはるかに劣ることが確かめられました(図1)。運動は、脳内で計画され、運動野から脊髄を通して指令が出され、筋が収縮することにより実行されますが、あらゆる階層でノイズの影響をうけます。したがって、運動を実行してみるまでは、どのような運動になるのかわかりません。つまり、同一の運動を実行することはきわめて難しいのですが、長期の訓練によりプロはそれを見事に成し遂げています[1]。

次に、我々は準備局面で遂行される素振りに着目し、実打を素振りから予測できるかどうかについて調べました。その結果、驚くことに、プロゴルファーであっても素振りとは実打では力の大きさとタイミングが全く異なることがわかりました(図2)。しかしながら、運動パターンは異なるものの、0.3 mで変化する標的に「素振りなり」の速度で見事に対応していることがわかりました(図3)。つまり、素振りは実打の完全なシミュレーションではないものの、素振りによって実打の正確性ある程度予測できる可能性があることが示唆されました[2]。

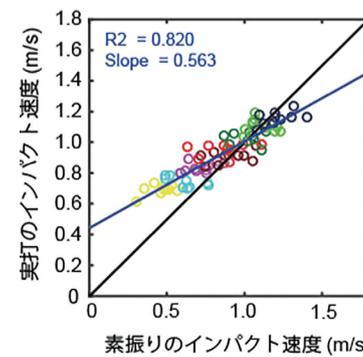


図3

現在、我々は行為者の方略と知覚の解明に取り組むために新たな実験を行っている最中です。距離感の機序を明らかにすることで、未熟練者の上達を妨げるボトルネックを理解し、運動学習に応用できることを目標としています。

GANDAI UPDATES

岩手大学公式Facebookに掲載している学生取材記事より、反響の大きかった記事を紹介いたします！

f 70周年記念樹

こんにちは！冬の寒さが和らいで、だんだんと春へと近づいているように感じる今日この頃です。早く暖かくなってほしいですね！農学部3年の川戸です。

岩手大学の農学部には多くの植物が生育しています！四季折々に見られる花や植物で季節の移り変わりを感じることできますよ。道沿いに大きな木が並んでいる並木道は散歩するに持ってこいです！

そんな岩手大学は2019年に創立70周年を迎えました。さまざまな式典などで70周年を祝うとともに、70周年記念樹が大学構内に3ヶ所植樹されました！そのうちの1本が農学部7号館の隣に植えられています。植樹された木は岩手大学を象徴する「桐の木」。今はまだ小さな木ですが、これから何年何十年と経つにつれて、私たちの成長と共にぐんぐんと成長することでしょう！

大学構内には70周年記念樹の他にもいくつかの記念樹があります。オープンキャンパスなどで岩手大学を訪れた際には、記念樹を探して探検をしてみても…？あなたの知らない岩手大学のスポットを見つかることができるかもしれませんよ！



i-Connect 通信欄

学内カンパニー『i-Connect』のメンバーが、いま伝えたいことを発信します。

このサークル・部活紹介してください!!!

こんにちは！i-Connect社員の農学部4年川戸です。

現在、i-Connectでは岩手大学のサークル・部活の紹介PVの作成に取り組んでいます！大学生から高校生、岩手大学に興味のある人に「岩手大学にはこんな活動をしている人がいる！」ことを伝えたいという思いから、まずはサークルや部活動から紹介しようと考えました。実際に活動している様子を動画にすることで、活動する人の声や雰囲気を伝え、もっと岩手大学の魅力を発信していければ良いと思います！

ぜひ自分のサークルや部活を紹介してほしい！また、このサークルや部活の活動が知りたい！という方がいらっしゃいましたら、岩手大学学内カンパニー i-Connectまでご連絡ください！！

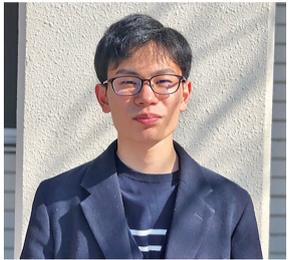
連絡先はこちら！

- 問い合わせメールアドレス
iconnect.gandai@gmail.com
- i-Connect Twitter公式アカウント



サークル紹介 ロック研究会

様々な音楽のジャンルの中でも、音の響きやメロディーが魅力的なロック。今回は、ロック好きなメンバーが集まり、共に音楽を楽しんで活動しているロック研究会にお話を伺いました！



取材に協力してくれた黒岩さん

？ ロック研究会とはどんなサークル？

現在、4年生も合わせて約40名で活動しています。ロックが好きなのはもちろん、音楽を聴くだけでなく、楽器に挑戦してみたい人などが入部し、みんなで音楽を楽しんでいます！ロックというジャンルの中でも好みの系統は様々なので、それぞれの好きな系統の良さを交流して、新たなロックの良さに気づくことができます！

？ 普段の活動の様子は？

月に一度、学内の施設をお借りして定期ライブを行っています！ロック研究会では、固定のメンバーでバンドを組むのではなく、月に一度の定期ライブ毎にバンドメンバーの入れ替えを行うので、毎回違った楽しみ方ができます！また、県内でバンド活動をしている大学生が集うカレッジ・オブ・ロックというイベントに参加し、他大学とも交流を深めています！その他には、サークルオリエンテーションや不來方祭などに出演しています。



ロック研究会活動の様子

？ 入部のきっかけは？

両親が聴いていた音楽の影響で、幼少期から音楽に触れる機会が多くありました。岩手大学にはいくつか音楽系のバンドサークルがありますが、自由でお互いの好きな音楽を尊重し合うことのできる雰囲気にとっても魅力を感じ、入部を決めました！

？ サークル活動中の印象的だった場面は？

入部のきっかけにもなったように、サークル全体として自由で和気藹々とした雰囲気がありますが、追いコン（卒業する4年生を送る会）の時は、普段と違って先輩方が4年間の熱い想いを涙ながらに真面目に語っていたのがすごく印象的でした。

？ 音楽にはどんな魅力があると思うか？

音楽のつながりは人のつながりだと思っています。初めてお会いした方とも、共通の話題となるし、相手の好きな音楽を知る事で相手とつながる感じが、なんとなく理解できる部分もあるかと思っています。今後も音楽を通しての人のつながりを大切にできたらなと思います！

ロックに対する熱い想いと、普段の活動の楽しげな様子が伝わるインタビューでした！これからの活動も楽しみます！



ロック研究会活動の様子

取材にご協力いただいた皆さん
部長 理工学部 システム創成工学科3年 黒岩 直央さん
(長野県須坂高等学校出身)

私たちが聞きました！

- 人文社会科学部 4年 藤村 玲
- 人文社会科学部 4年 真田 茉莉子

サークル紹介 水泳部

岩手大学には、暑い夏はもちろん、どんな季節でも熱心に水泳に取り組んでいる学生たちがいます。今回はそんな熱い学生たちが集まる水泳部にお話を伺いました！



取材に協力してくれた
(左から) 木村さん、佐藤さん

？ 水泳部はどんな部活？

現在、約30名で活動しています。大会に向けて練習に取り組み選手のために、「ヘルシー」と呼ばれる人たちがいます。ヘルシーは、水泳を楽しみたい！痩せたい！という目的で入部した人たちのことです。目的は人それぞれですが、選手もヘルシーも仲良く活動に励んでいます！

？ 普段はどんな活動をしていますか？

練習日は毎週火・木・金曜日です。夏場は岩手大学、冬場は岩手県立大学のプールにて活動しています。選手たちは、インカレに向けて日々練習に取り組んでいます。

？ 入部のきっかけは？

木村：元々、高校まで水泳をしていたことがきっかけです。また、説明会で他大学との交流も多しと聞き、入部を決めました。

佐藤：私も水泳経験者で、大学でも続けたいと思っていました。4月の見学会で真剣に取り組んでいる姿や優しい先輩たちの雰囲気を感ぜられたことが決め手です。

？ 水泳部の魅力は？

学年問わず、とても仲が良いことです。先輩たちも優

？ 入部活を通して成長したことは、

人との関わりが増えたので、コミュニケーション能力が高まったと思います。また、大会役員などを通して、高校の時よりも感謝することの大切さを学びました。

取材を通して、水泳部の皆さんが和気あいあいとした雰囲気で活動しているということが分かりました。今後の活躍に期待しています！

また、水泳部では部員を募集しているとのことでした。特に女子はリレーを組めないという状態なので、水泳経験のある方、楽しく運動がしたいと思っっている方は、ぜひ水泳部をチェックしてみてください！



水泳部集合

取材にご協力いただいた皆さん
部長 理工学部3年 木村 和都さん(青森県三本木高等学校出身)
部員 理工学部2年 佐藤 邦成さん(秋田県大館鳳鳴高等学校出身)

Introduction to a senior

センパイ 紹介!!

OB-INTERVIEW

インタビュー

第43回



PROFILE

まつた こうへい
松田 航平 さん

宮城県 仙台生まれ
平成31年3月 教育学部 卒業
シンガポール日本人学校
中学部

日本人学校 中学部 教員

Q1 在学当時の思い出をお聞かせください。

私は教育学部・芸術文化課程・美術デザインコースで4年間学ばせていただきました。

教育実習や指導案の作り方を学ぶ中、作品制作を行っていました。アルバイトやサークルなどに参加していた時期もありましたが、自分の作品制作に没頭していたのが一番の思い出です。当時担当して下さった教授はとてもユニークな方で「根拠のない自信」という言葉をよくおっしゃっていました。今でも、私の中で何か困ったときに背中を押してくれる言葉です。

さらに、盛岡は美術に対して寛容な街であり、地域の画材屋さんや美術作家さんたち、ギャラリーのオーナーさんたちと交流出来たことは大切な思い出での1つです。一人暮らしの私にとって盛岡で出会えた人々は心を支えてくれる大きな存在でした。

Q2 現在のお仕事に就かれたきっかけはどのようなことですか。

大学4年次に、地方の教員採用試験を受けたのですが良い結果がもらえず、地元宮城県へ戻り非常勤講師として働き、制作活動を続けようと考えていました。しかし、在学中にアメリカへ旅行したこともあり、外国で働けるシンガポール日本人学校中学部に応募をしました。理由としては「自分が1番想像できない人生」だと思い、選択しました。当然、家族や友人、大切だった人とは離れなければなりませんでした。若い今しか行けないのではないかと、絶対に行くべきだよという声援もあり海外で働くという決断をしました。

Q3 仕事のやりがいや今後の目標をお聞かせください。

教員はただ専門教科を教えるのではなく、生活態度や人として大切なことを伝える仕事だと改めて実感しています。私が何気なく伝えたり教えたりした言葉を生徒が覚えていると「もっと責任をもって伝えたい、教えたい」と強く思うようになりました。

今後の目標は「説得力のある言葉で話すこと」です。生徒の人生や価値観が広がっていくような言葉で伝えたいです。そのためにも、私自身がここでしかできない経験を積極的に行っていきたいです。

Q4 後輩となる岩大生へメッセージをお願いします。

私も1年前までは寒さで目が覚める町、「盛岡」に住んでいました。盛岡はそんな寒さとともに人の温かさを感じることもできる町でもあります。透き通った空気や懐かしさのある町並みは、ほかのどこにもない特別な場所です。その場所ではしか出来ないことを常にチャレンジする気持ちは忘れずに持ち続けてください。

そして、あなた自身の「根拠のない自信」を信じて、新しい世界へ進みましょう。盛岡はいつでも私たちを待っています。

TOPICS トピックス

農学部附属寒冷フィールドサイエンス教育研究センターで アウトドア車椅子HIPPOcampeを導入

岩手大学農学部附属寒冷フィールドサイエンス教育研究センターは、学内や他大学の実習、一般市民向けの公開講座の場として多く利用されておりますが、身体の不自由な学生・一般の方など、より多くの皆様にも農場、牧場、演習林をご利用いただけるよう、アウトドア車椅子HIPPOcampeを導入しました。



演習林内を走行するアウトドア車椅子

HIPPOcampeは水陸両用で、普通の車椅子での走行が困難であった急斜面の森林や水田、畑、砂利道などでの走行が可能です。岩手県内での導入は今のところ確認されておらず、今回の導入が初となります。

岩手大学環境マネジメント学生委員会が 令和元年度地球温暖化防止活動環境大臣表彰を受賞

岩手大学環境マネジメント学生委員会の10年以上にわたる環境活動が評価され、令和元年度地球温暖化防止活動環境大臣表彰を受賞しました。環境マネジメント学生委員会が受賞した「対策活動実践・普及部門」は、地球温暖化を防止する活動の実践・普及等5年以上の継続的な取組に関する功績が認められた者に贈られる賞です。



表彰式にて八木哲也環境大臣政務官と学生

本学の環境配慮への取組や、学生委員会の活動内容に関しては、以下のQRコードをご覧ください。



岩手大学環境配慮への取組はこちら



環境マネジメント学生委員会の活動内容ははこちら

Information

岩手大学の教育・研究コストの情報 (平成30年度)

■学生1人あたりの教育関係経費

約70万円/年 (教育関係経費(人件費含む) ÷ 学生数)

教育関係経費(人件費含む)(平成30年度)	38億円
学生数(平成30年5月1日現在)	5,454人

■教員1人あたりの研究関係経費

約775万円/年 (研究関係経費(人件費、外部資金含む) ÷ 教員数)

研究関係経費(人件費、外部資金含む)(平成30年度)	30億4千万円
教員数(附属学校除く常勤教員)(平成30年5月1日現在)	393人

岩手大学ホームページからFINANCIAL REPORTをご覧くださいませ。
【大学紹介】→【財務・調達情報】→【財務諸表等】

高校生・受験生向けサイトをオープン!

各学部の情報、入試情報、先輩の声など、高校生・受験生の皆様向けの情報をまとめた高校生・受験生向けサイトをオープンしています。ぜひご覧ください。



岩手大学公式ソーシャルメディアのご案内

岩手大学公式Facebook、YouTubeを更新中! Facebookには、学内カンパニー「i-Connect」の学生が取材した記事も掲載しています。ぜひ覗いてみてください。



岩手大学公式Facebook
<https://www.facebook.com/iwate.u>

岩手大学公式YouTubeチャンネル
<https://www.youtube.com/channel/UC8ua2BprbPkSvGSMYwK1aOA>



岩手大学イーハトーヴ基金へのご協力について

岩手大学では、教育研究の充実はもとより、学生に対する修学支援の一層の推進を図るため、平成27年度に「岩手大学イーハトーヴ基金」を創設しました。本基金は、本学の教育研究や学生支援を幅広く展開することを目的とした「一般基金」と、東日本大震災により被害に遭った学生たちへの修学支援など、使途を特定した「特定基金」で構成され、これまで、企業・団体や個人の皆様など多くの方々からご支援をいただいております。最新の特定基金情報、寄附の申込・払込方法については、お手数ですが、イーハトーヴ基金ホームページをご覧ください。

岩手大学イーハトーヴ基金ホームページ:
<https://www.iwate-u.ac.jp/ihatovkikin/>



Hi! 岩手大学

岩手大学広報誌 vol.45 APRIL 2020.4
IWATE UNIVERSITY

編集後記

2月も終わりの朝、見上げた空に100羽にも及ぶうかという白鳥の大群が北を目指して飛んでいました。今年も本学からたくさんの若者が旅立ちました。皆さんの新しい出会いにたくさんの幸せが舞い込みますよう祈ります。

近年、岩手を舞台とした映画や小説、県出身者の活躍が目立ってきているように感じます。岩手県は良い環境と人材に恵まれていると思います。本紙もそのような魅力をもっと積極的に発信していければと思います。

Hi!こちら岩手大学 vol.45

岩手大学広報室広報誌専門部会
2020年4月 発行
〒020-8550 盛岡市上田三丁目18-8
電話 019-621-6015 FAX 019-621-6014
E-mail:kkoho@iwate-u.ac.jp <https://www.iwate-u.ac.jp/>
本誌へのご意見・ご感想をおまちしております。